

2023年
4月3日 No.1697



週刊 教育資料

EDUCATIONAL PUBLIC OPINION <http://www.kyoiku-shiryo.co.jp>



潮流

教育効果の科学的検証を

IGS株式会社取締役、ビジネス開発部統括部長 中里 忍^①

資料

新学期以降の学校におけるマスク着用の考え方の見直し等について(通知)ほか

——文部科学省

CONTENTS

▶ 2 潮流

教育効果の科学的検証を

中里 忍(IGS株式会社取締役、ビジネス開発部統括部長)^①

▶ 5 解説・ニュースの焦点

○いじめ重大事態調査で標準的な項目・内容など示す

○教育データの利活用で「留意事項」「Q&A」まとめる

編集部

▶ 8 特集

小学校の教科担任制について

編集部

▶ 14 校長講話

「新しい戦前」にしてはならない

岩瀬正司(公益財団法人全国修学旅行研究協会理事長)

▶ 16 実践！ 校長塾

伝統を生かした特色ある教育活動

植村洋司(東京都中央区立久松小学校校長)

▶ 19 資料

新学期以降の学校におけるマスク着用の考え方の見直し等について(通知)ほか

文部科学省

▶ 33 Voice

▶ 35 教育問題法律相談

教材のオンライン送信と著作権法

三坂彰彦(弁護士)

▶ 36 学習指導要領のアイデアを实践する

「深い学び」の理解を深めるために^③

玉置 崇(岐阜聖徳学園大学教育学部教授)

▶ 38 私たち、子どもの全力サポーター！

子どもに「やめたい」と言われたら

立崎愛枝(公認心理師)

▶ 40 地方議会から〈注目の質問ダイジェスト〉

学びへの支援^②

編集部

▶ 42 変わる教育委員会

まちづくりの原点は人づくりにあり、人づくりは、教育にあり
洋野町と海洋教育「ひろの学」^③

岩手県・洋野町教育委員会

▶ 44 現場仕込みのメンタルケア論

権威勾配

川上康則(東京都立矢口特別支援学校主任教諭)

▶ 46 新連載 こう進める！保護者・家庭との連携

新年度は保護者が集まる機会を活用して「自己開示」を
長島ともこ(フリーライター・エディター)

▶ 47 BOOK

『「心のクセ」に気づくには—社会心理学から考える』
『やっかいな問題はみんなて解く』

▶ 48 自著を語る

『学校安全のリデザイン』

災害、事件、事故から子どもたちを守るために^④

宮田美恵子(NPO法人日本こどもの安全教育総合研究所理事長)

▶ 51 データで見る教育

学校の状況

▶ 52 マイオピニオン

特別活動の指導を引き継ぐ者

清水弘美(創価大学非常勤講師)

▶ 別冊・教育小辞典 下巻

リーダーのための最新教育キーワード(令和5年)

初等中等教育、スポーツ、調査・統計

潮流

IGS (Institution for a Global Society)
株式会社取締役、ビジネス開発部統括部長

なかさと しのぶ
中里忍さんに聞く(上)



教育効果の科学的検証を

自分の強みを可視化するとともに
探究型の学習の評価などにも
活かせるツールとサービスを
提供してきた。

外資系PR会社、オンラインメディア企業の広報および協会ビジネス担当執行役員を経て現職。慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科で教育システムを研究中。システムエンジニアリング修士。東京学芸大学高校探究プロジェクトアドバイザーボードのメンバー。

AIを活用して評価のバイアスを補正

— 「AI GROW (アイ・グロウ)」という

教育関連のサービスを提供されていますね。

中里 私たちの会社は「分断なき持続可能な社会を実現するための手段を提供する」ために、AIを活用した人材評価プラットフォームを企業や学校に提供する事業を展開しています。

「AI GROW」は生徒一人一人の強みを可視化し、育成するための評価ツールとして、2019年4月にリリースし、国内外の小・中・高校300校以上、国内では40都道府県で導入されています。知識を問う従来のテストでは評価が難しい「知識を活用する力」は、その評価基準が曖昧になりやすく、多様な能力を評価しようとすると、一人一人の正確な評価がとて難しくなります。そこで、「AI GROW」では、生徒の自己評価に加えて生徒同士による相互評価を取り入れるとともに、人が他人を評価するときに生じやすい「忖度(そんたく)」や「甘い・辛い」など、不必要な「評価のバイアス」を人工知能(AI)が補正する仕組みを取り入れました。そして、25種類の「知識やスキルを活用し、問題解決するための力」を公正に可視化できるように

しました。

また、年間に複数回、測定したデータを活用して、「どのような教育活動が、どのような能力育成に貢献したのか」という、教育効果の検証ができるようになりました。例えば、探究型の学習や学校行事の開始時期と終了時期に「AI GROW」を受検することで、生徒が具体的にどのような能力を伸ばしたのかを定量的に評価することができるようになります。

——どのような項目を測定しているのでしょうか。

自分の強みや特性を理解してもらうことで、それをさらに伸ばし、課題を改善することに役立ててもらいたいと考えています。「AI GROW」では、大きく「気質」（潜在的な性格）と「コンピテンシー」を測定しています。「気質」は▽外向性・内向性▽開放性・保守性▽繊細性・平穏性▽協調性・独立性▽自律性・自由性——という五つの相対する要素で自分がどのような位置にあるのかを数値化しています。「コンピテンシー」については、「認知」「自己」「他者」「コミュニティ」で分類される合わせて25の行動特性を測定して数値化します。例えば「認知」では「課題設定」「解決意向」「創造性」「論理的思考」「疑う力」

の5項目、「自己」では、「個人的実行力」「自己効力」「耐性」「感情コントロール」「決断力」など9項目、「他者」では「表現力」「共感・傾聴力」「柔軟性」「寛容」「影響力の行使」など7項目、「コミュニティ」では「組織への働きかけ」「地球市民」「組織へのコミットメント」「誠実さ」の4項目を測定しています。詳しくは、「AI GROW」のサイトをご覧ください。

自分の強みを客観的に知るツールに

——測定結果は「個人レポート」という形で生徒一人一人に還元していますね。

中里 気質診断では、一般的には「外向性と開放性があつて平穏で協調性も自律性もある人」が良いイメージですが、コンサルタントや技術職など専門的な職種では、「内向性」が重視されますし、新しいものを生み出すような職種では「独立性」の高い人が必要です。また「自由性」の高い人は、より効率的に仕事に取り組むことができる長所があります。ですから、単純にスコアが高いと良いのではなくて、自分の「得意または不得意なことが分かる」ことで、自分の強みに自信を持ったり、不得意なことは改善したりする、きっかけになればと考えています。

コンピテンシーについても、現在のように技術革新が急速に進む社会では、学力やスキルとともに重要になっていきます。「個人レポート」では、「コンピテンシープロフィール」という欄で、「認知」「自己」「他者」「コミュニティ」の4分野について、その生徒の傾向や特性を踏まえて、アドバイスをしています。例えば、認知分野での測定結果を踏まえて、「課題をクリアするためのプロセスについて、成功例のパターンとその理由を学び、自分でも同じように実践してみる」「課題を達成する能力の高い人に自分のやり方とその結果について客観的なフィードバックをもらい、次回以降にそれを生かす」「プロジェクトや問題に関わる際には、一つではなく、二つか三つと複数の案を考えるようにする」などとアドバイスしています。また、相互評価などの結果も踏まえて、「誰もが認めているあなたの強み」「自分では気付いていないあなたの強み」「周りは気付いていないあなたの強み」「あなたの潜在的な能力」について、該当する項目を指摘した「コンピテンシーサマリー」や「あなたが伸ばしやすいくンピテンシー」なども知ってもらおうようにしています。

——先生にとってはどのような活用のメリットがありますか。

中里 生徒には個人レポートで自分の強みを知ってもらおうという活用ができませんが、数値化されたデータがあることで、クラス全体の生徒の実態を一覧表にして、個別指導に生かせませし、また学年全体で見ると、個別の学級の生徒の傾向やスコアが良くなった部分などを基に教育活動の効果を分析することができるようになります。

コンピテンシーについては、評価基準となるルーブリックの記述を4段階で用意しており、それに基づいてスコア化をしています。

学力以外の資質・能力と共通テストの関係

——最近、大学入試での共通テストと、後項3年間の学力以外の資質・能力の関係を分析した調査結果を公表されましたね。

中里 私どもの評価ツールを活用していただいている東京の私立高校のご協力で、共通テストの国語と数学の成績（自己採点）と高校3年間の資質・能力（コンピテンシーの項目）との相関を調べてみました。この高校では、従来の学力育成のほかに、探究型学習にも力を入れています。高校3年生33人の共通テストの自己採点結果と、同じ生徒の「Ai GROW」による3年間の測定結果、さらにAIで補正した生徒同士の相互評価の結果な

どを基に、相関分析をしました。

その結果、共通テストの「国語」で高得点だった生徒は、1年生と2年生の時に「決断力」が高かったことが分かりました。また、「数学ⅠA」で高得点だった生徒は1年生と2年生の時に「柔軟性」のスコアが高い生徒たちでした。私たちは「決断力」について「自分の考えと客観的な事実とを照らし合わせながら判断し、物事を決めることのできる能力」と定義して、測定しています。国語は文章や文章中の言葉を読み解き、適切に解釈することが求められます。どのような意味を持つ言葉を選び、どのような解釈をするかには、明確な決断力や正確な判断力が求められます。こうした観点からすると、決断力と国語の成績には密接な関係があるのではと考えています。

「数学ⅠA」についても、単なる計算力だけでなく、さまざまな問題に対して適切なアプローチを取る柔軟性が求められることがうかがえます。

——決断力や柔軟性を伸ばすための学校現場での取り組み事例はあるのでしょうか。

中里 「Ai GROW」導入校での取り組み事例ですが、「決断力」のスコアが高い高校では、「今の自分たちに特に必要なトレーニ

ングは何だかと思うかを生徒に考えさせ、部活動の練習メニューの一部を生徒主体に決めさせる」「考えることが複雑で判断に迷うようなことがあっても、できる限りその場の議論の中で決めさせ、素早く行動に移せるようにする」などの取り組みがありました。

また、「柔軟性」のスコアが高い高校では、「グループで課題に取り組ませる際、ワークの途中で課題の内容や発表方法の一部を意図的に変更して、臨機応変に対応できるようにした」「生徒が慣れ親しんだものや手法、役割に固執することのないよう、行事などの際にはあえてそれまでとは異なる役割を与える」などがありました。

こうした項目に限らず、コンピテンシーを育成するための実践事例や、今回の分析結果などについての詳細は、弊社のサイトなどで公開していますので、探究的な学びや学力以外の資質・能力の育成にも関心をお持ちの教育現場の先生方と、今後も情報提供や連携を進めて行ければと考えています。

Ai GROW(アイ・グロウ)のサイト＝<https://www.aigrow.jp/aigrow>

